

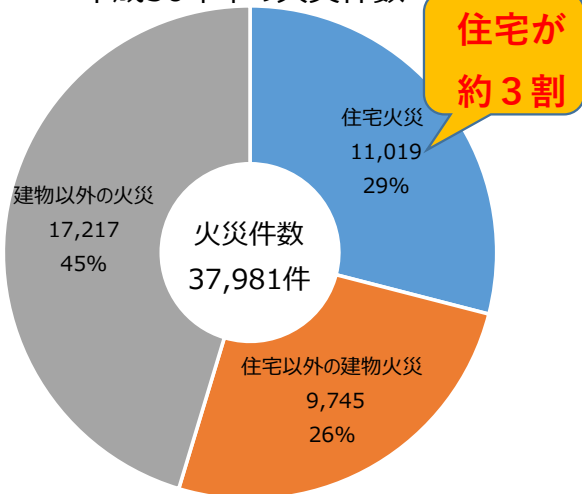
# 逃げ遅れないために



## 火災の死者の約7割は住宅火災で発生

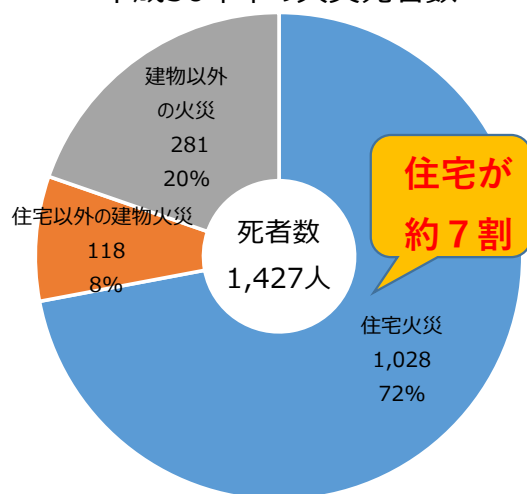
住宅火災の件数は総火災件数の3割ですが、住宅火災による死者数は総死者数の約7割を占めています。(全国)

平成30年中の火災件数



※ 放火を含む全ての火災

平成30年中の火災死者数



※ 放火自殺等を含む全ての死者

## 住宅用火災警報器の効果は？

住宅火災における被害状況を分析したところ、住宅用火災警報器が設置されている場合は、設置されていない場合に比べ、死者の発生は約4割減、焼損床面積、損害額は概ね半減した結果となりました。(全国)

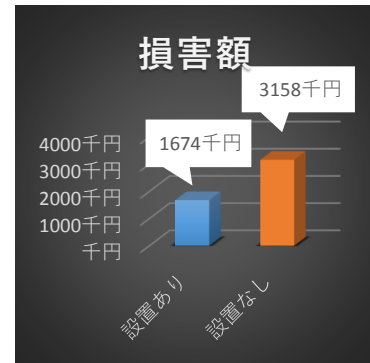
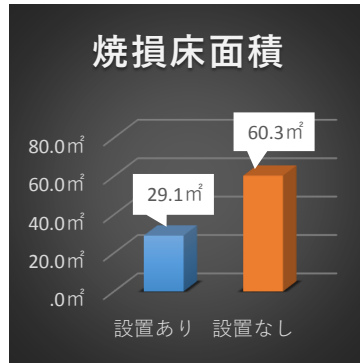
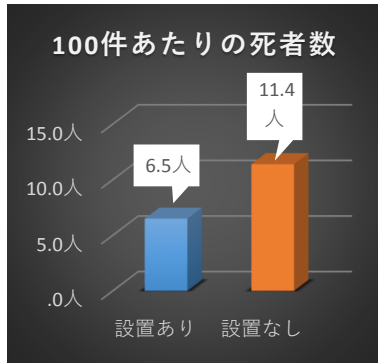
## 住宅用火災警報器の効果

H 2 7 年からH 2 9 年までの3年間における失火を原因とした住宅火災について、火災報告を基に、住宅用火災警報器の効果分析。(全国)

※ ここでは、住宅火災のうち原因経過が「放火」、「放火の疑い」であるものを除く件数を、「失火を原因とした住宅火災の件数」としている。

死者、焼損床面積及び損害額を見ると、住宅用火災警報器を設置している場合は、設置していない場合に比べ、死者の発生は4割減、焼損床面積と損害額は概ね半減。

住宅用火災警報器を設置すれば、火災発生時の死亡リスクや財産の損失リスクが大幅に減少。



※「死者」とは、火災現場において火災に直接起因して死亡した者であり、火災により負傷した後48時間以内に死亡した者を含む

※ 死者の発生した経過が「殺人・自損」(放火自殺者の巻添者、放火殺人の犠牲者)であるものを除く

## 住宅防火いのちを守る7つのポイント～3つの習慣・4つの対策～

死者の発生した住宅火災の主な原因は、たばこ、ストーブ、こんろです。これらの火災を起こさないために「3つの習慣・4つの対策」を心がけましょう。



## 住宅火災を知らせる警報器！取替え時期は？

- 住宅用火災警報器の電池の寿命の目安は約10年！  
**定期的な作動確認を！**

住宅用火災警報器は、一般的には電池で動いています。火災を感知するために常に作動しており、その電池の寿命の目安は約10年とされています。

住宅用火災警報器が適切に機能するためには維持管理が重要です。「いざ」というときに住宅用火災警報器が適切

に作動するよう、火災予防運動の時期などに、定期的に作動確認を行い、適切に交換を行うよう習慣づけましょう。



住宅用火災警報器

## 住宅用火災警報器の維持管理について

### 定期的な作動確認

点検ボタンを押すか点検ひもをひっぱり、定期的（※1）に作動確認をしましょう。



作動確認をしても警報器に反応がなければ、本体の故障か電池切れです。（※2）警報器の本体又は電池を交換しましょう。



定期的な作動確認

### 古くなったら交換

火災警報以外の警報が鳴った場合



本体の故障か電池切れです。（※2）警報器本体を交換しましょう。



古くなったら交換

- ※1 住宅用火災警報器の電池の寿命の目安は約10年とされています。警報器の作動確認は、春秋の火災予防運動の時期に行うなど、定期的に実施してください。
- ※2 故障か電池切れか分からないときは、取扱説明書を確認するか、メーカーにお問合せください。なお、電池切れと判明した警報器が設置から10年以上経過している場合は、本体内部の電子部品が劣化して火災を感知しなくなることが考えられるため、本体の交換を推奨しています。

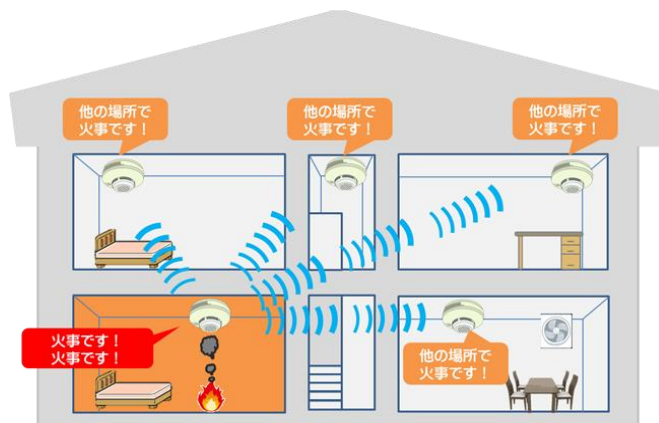
## 「付加価値のある住宅用火災警報器」のオススメ

<「単独型」と「連動型」があります>

単独型：火災を感知した住宅用火災警報器だけが警報を発します。

連動型：火災を感知した住宅用火災警報器だけでなく、連動設定を行っているすべての住宅用火災警報器が火災信号を受け警報を発します。

なお、連動型には、配線によるものと無線式のものがあります。



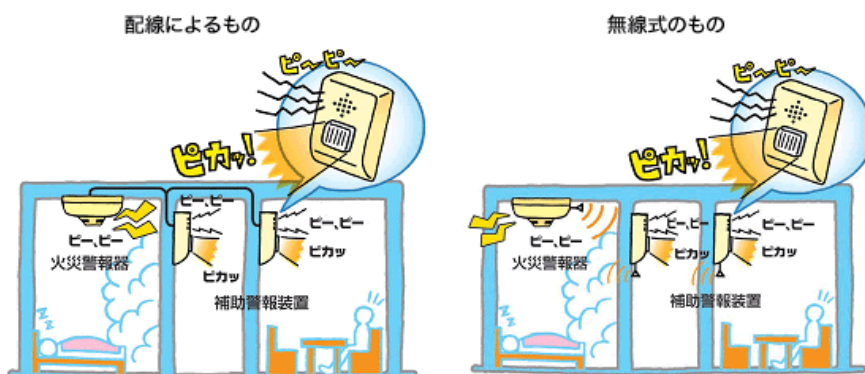
<https://youtu.be/k746GSmtATI>



### 連動型住宅用火災警報器の作動イメージ

#### <補助警報装置>

高齢者の方、目や耳の不自由な方には、音や光のでる補助警報装置の増設をおすすめします。



※ イラストのアンテナはイメージです。実際には付いていません。